

# GINGA REPORT 401

No.89  
2022.10

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和4年10月1日  
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム  
電話：059-355-2700

## 10月の星空

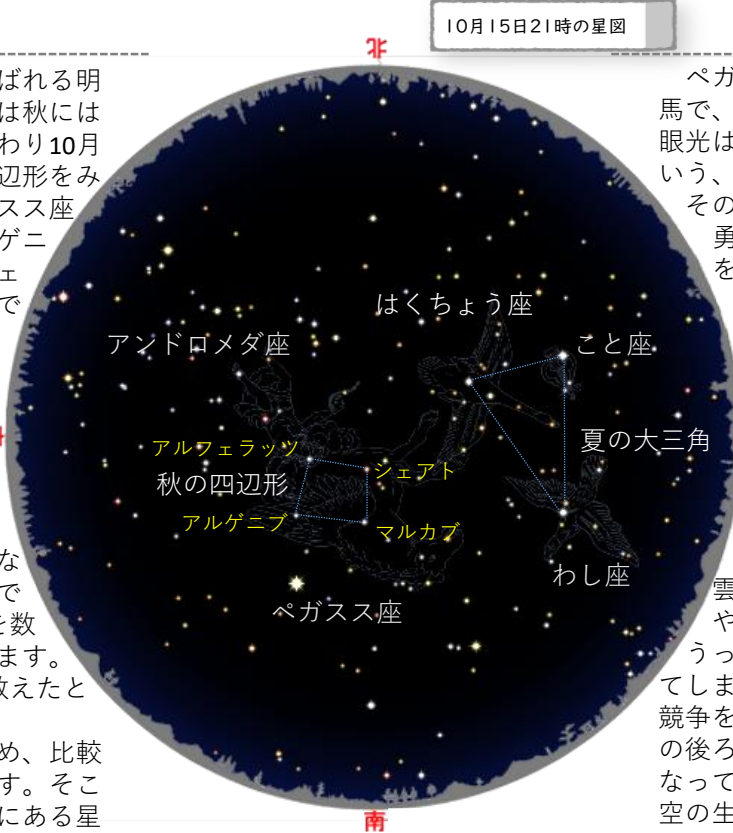
星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

### 秋の星探し

春、夏、冬には大三角と呼ばれる明るい星並びがありますが、実は秋には大三角はありません。その代わりに10月中旬頃、空を眺めると秋の四辺形を見つけることができます。ペガサス座のシェアト、マルカブ、アルゲニブ、アンドロメダ座のアルフェラッツを結んでできた四辺形です。日本では四隅星（よつまぼし）、四星（しぼし）、樹形星（ますがたぼし）とも呼ばれています。

この四辺形の中には、5等や6等以下の微光星ばかりが輝いているため、肉眼で星を数えることは困難です。そんな中でも、昔ギリシャのアテネでは、四辺形の中に102個の星を数えた人がいたという話があります。日本ではさらに多く、108个数えたという人もいました。

秋は特別明るい星がないため、比較的簡単に四辺形が見つかります。そこからさらに、秋の四辺形の中にある星探しに、肉眼や双眼鏡でチャレンジしてみるのも面白いかもしれません。



10月15日21時の星図

### 半分になったペガサス

ペガサスは銀色に輝く翼のはえた天馬で、空を非常に速く飛ぶことができ、眼光は鋭く、怒ると口から火を噴くという、荒々しい気性をもっていました。その生まれはさらに奇妙奇天烈で、勇者ペルセウスが怪物メドゥーサを退治したとき、ほとぼしる血が大地に染みだした場所から、声高くないないて飛びだしてきたとされています。

また、秋の夜空に輝くペガサスの星座絵が半分しか描かれていないのはなぜなのか、実はこれには様々な説があります。神様がペガサスを星にしようとしたとき、たまたま後ろ半分が雲に隠れてしまっていたという説や、怪獣キマイラと戦ったとき、うっかり下半身をガブリと食べられてしまったという説。光と速さ比べの競争をした際、あまりのスピードに体の後ろ半分がついてこられず、半分になってしまったという説などです。星空の生き物の中でも特に変わった姿をしているペガサス座を、みなさんはイメージできるでしょうか。

## 今月の天文トピック

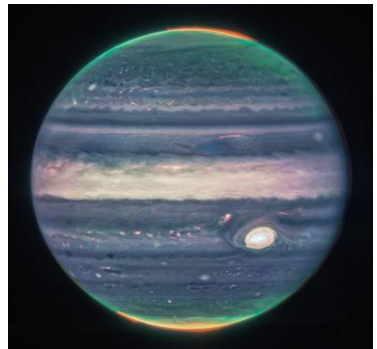
©NASA,ESA,Jupiter,ERS Team;image processing by Judy Schmidt

### 初めての宇宙を映し出す、ジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡

夜空を見上げると星座を作る星＝恒星以外にも、惑星を見ることができます。この時期よくみえる惑星の中で一番大きい惑星といえば木星です。木星は何世紀にもわたって渦巻いている巨大な嵐「大赤斑」が有名ですが、この大赤斑などを鮮明に撮影した画像が2022年8月22日に公開されました。この画像を撮影したのが、ジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡です。

ジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡は、アメリカ航空宇宙局（NASA）が中心となって開発を行っている赤外線観測用宇宙望遠鏡です。大赤斑以外にも木星の破片による塵でできた細い環や、木星の北極と南極に見えるオーロラを、近赤外線カメラのフィルターを使って、信じられないほど詳細に捉えました。

この望遠鏡では、宇宙の塵に遮られない赤外線のデータを扱うことで、生命が存在できる惑星を探すことや、宇宙初期の銀河がどのような元素でできていたのか解明できる可能性があると言われています。宇宙の大発見につながる予感がすると、今後に期待する声があがる最新の望遠鏡です。



## 博物館主催 スターウォッチング

### 博物館主催きさら号観望会

日時：10月22日（土）19：00～20：30  
場所：博物館前市民公園  
内容：木星・土星を見よう







## 編集後記

10月、日もだんだんと短くなり、服装も本格的に長袖へと、衣替えの季節ですね。秋は美味しい物もたくさんあり、紅葉もみられるようになって、夏とはまた違った楽しみ方ができる季節です。

夜空にも、秋の訪れを教えてくれる星たちが輝き始めます。この秋は皆さんどのように過ごされるのでしょうか？冬までの短い期間、秋を存分に楽しみたいですね。

## 10月の月

- 3日  上弦
- 10日  満月
- 18日  下弦
- 25日  新月

※当日受付・参加無料です。  
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)  
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。